

◎学童疎開の歌
(集団疎開:第6回)

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

太平洋戦争
敗戦から78年目の
夏がやってきました。

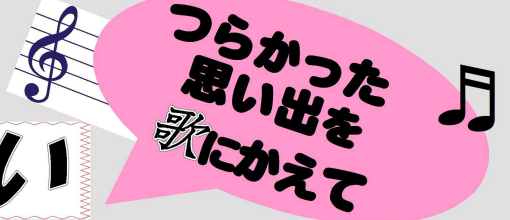
集団学童疎開を経験し、
「学童疎開の歌」を今も
歌える方はたいへん少なくなっ
てきています。

安城の集落支援員川畑美和子
さんの案内で長野シズ子さんを
紹介していただき、学童疎開
の歌を歌っていただきました。

梅雨時期の6月14日、
川畑さんが長野さんの
ご自宅で録画録音して
くださいました。

感謝いたし
ます。

疎開を 忘れない!



長野シズ子さん 小学6年生のときに集団学童疎開を
経験された。

安城下之町出身 上之町在住 89歳



今回の「上西だより」は
表裏2枚あります。2枚目
には「かぞえ歌」も掲載し
ています。

「かぞえ歌」はシズ子さ
んをふくむ女の子たちが安
城のお母さん宛に手紙を書
こうとする折に、つるる思
いを誰からともなく歌にし
ようと呼びかけて作り上げ
た歌だそうです。

学童疎開の歌

採詩 岩坪トシ子さん(安城)

一時しも昭和二十年 グラマン攻めくる種子島

頃は四月うづきの中なかつのころ 学童疎開の命下る

二 愛いとしきわが子を旅の空 出してやるのも勝つために

年端としはいかぬ幼子おやなごが 旅行く先は知らぬ土地く

三 暗き夜中に船に乗せ 別れを惜しむ折柄に

又もや降りくる涙雨 だれか哀れと思うらん

四 やがて近づく爆音に 親は死すとも子は死ぬな

思いは通う菱刈に 先生保護婦よ頼みます

五 頃は八月中の頃 戦いやめよの命下り

帰る準備に子どもらは 思いはいつしか母の顔

六 思い出多き菱刈に 永々お世話になりました

僕らが大きくなったなら きつとお礼に参ります

七 嵐の中に別れ告げ 汽車の中やら船の上

思うは我家のことばかり 今日帰るべし種子島